

明けましておめでとうございます。
関係団体の方々より新年のご挨拶をいただきました。



◆ 経済産業省 ◆

経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車リサイクル室長
金澤 信 様

平成27年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
昨年とりまとめた自動車産業戦略2014では、自動車リサイクルを戦略の一つと位置付け、自動車リサイクルの進化、リサイクル部品の活用促進により自動車の付加価値を高める先進的な国内市場を構築し、市場の活性化に繋げていくことが期待されています。

また、自動車リサイクル制度施行から10年を経て、自動車リサイクルを巡る環境も変化するなか、解体業界のみならず関係業界と互いの利益を創出していく取り組みが重要であり、一般社団法人日本ELVリサイクル機構に対する期待も益々高まっております。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

◆ 環境省 ◆

環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室 室長
庄子 真憲 様

平素より、自動車リサイクルの推進に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

日本ELVリサイクル機構の皆様におかれましては、環境省実証事業にご参画いただいたの電子基盤・プラスチック等の回収・リサイクル、自動車リサイクル士制度による関係業者の技術・能力向上のための取組を進めていただいているところです。資源循環を量だけでなく質の面からも着目した循環型社会の形成に向けて、今後は有用金属の回収等を進めることにより、リサイクルの付加価値を高めるとともに、ASRの発生量を抑制することがますます重要と考えており、日本ELVリサイクル機構の皆様の一層の取組に期待する次第です。

末筆ながら、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

◆ 自動車リサイクル促進センター ◆

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター 専務理事
葛西 健洋 様

新年明けましておめでとうございます。自動車リサイクル法が施行されて10年が経過しましたが、自動車リサイクルシステムは、関係者の皆様方の絶大なるご協力を得て、極めて順調且つ安定的に稼働しております。心より御礼を申し上げます。

東日本大震災に伴う被災車両の処理につきましても、昨年11月に番号不明被災自動車の特別対応窓口での受付を無事に終了し、3年半の期間での預託台数は、約1万3千台に上りました。震災からの復興という面では、自動車リサイクルの分野でも残された課題がまだまだ少なくありませんが、今後も通常の運営体制の中で、必要とされる対応を迅速、確実に実施して参ります。

本年も引き続き自動車リサイクルシステムの安定稼働に万全を尽くす所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

◆ 自動車再資源化協力機構 ◆

一般社団法人 自動車再資源化協力機構 代表理事
阿部 知和 様

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン類・エアバッグ類の適正処理へのご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、リコール対象のエアバッグの取外回収に多大なるご協力をいただき重ねて御礼申し上げます。ご面倒・ご心配をおかけしておりますが、作業現場での安全確保のため、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

さて、自動車リサイクル法も本格施行後10年を迎え、合同審議会の方で見直し議論が行われておりますが、当機構としても、自動車リサイクル産業の健全で持続的な発展、皆さまの安全かつ適正な業務実施のため、引き続き的確な情報発信と適正処理の推進活動に努めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、日本ELVリサイクル機構の益々の発展ならびに会員の皆さまの益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



ELV機構の代表理事及び副代表理事より
新年のご挨拶をさせていただきます。



◆ ELV機構 新時代のご挨拶 ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 代表理事
河村 二四夫

新年おめでとうございます。昨年はELV機構の事業活動を通じて皆様方には大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

昨年11月25日に開催された第35回産構審・中環審合同会議では、業界のヒアリングが実施され、ELV機構は活動報告と自り法の見直しへの論点を述べました。法制度の動きは次世代に向けたリサイクルの高度化、「リサイクルからリユースへ」といった流れです。今後の審議会では、終盤に向けて論点を精査して、新時代への新たな動きがスタートします。

ELV機構は、現在、経済産業省より提案のあった「リサイクル部品の規格化」に取り組んでいます。これは規格化を旗印に業界が一枚岩で取り組み、社会に強いメッセージを発信する絶好の機会であります。リユース部品普及に向けた行政支援の旗印です。山が鼓動を始めます。

ELV機構は、1月6日、自動車業界主要5団体が主催する新年の賀詞交歓会に自工会よりご招待を頂きました。これは、皆様方の活動が日本社会で認知されたご苦勞の賜物であり、感謝と合わせ新年の報告とします。

本年も会員の皆様が組織を挙げて役割責任を見事果たし、業界発展に取り組むことを期待します。新年度も変わらず倍旧のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

ELV Newsletter

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター
(ELV Newsletter)

編集・発行責任者

日本ELVリサイクル機構
広報部会 部会長 永田 則男

お問い合わせ先

日本ELVリサイクル機構 事務局
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2-2 美ビル5F
◆メール jaera-homepage@elv.or.jp
◆Tel 03-3519-5181
◆Fax 03-3597-5171
◆HP http://www.elv.or.jp/

目次

新年のご挨拶 ～ 関係団体の方々より ～	1
巻頭言	2
新年のご挨拶 ～ 正副代表理事より ～	2 - 3
鉄スクラップ最新情報	4
行事予定	5
お知らせ	5
編集後記	5

巻頭言

新年明けましておめでとうございます。昨年の広報部会で、広報委員の記事を記名にすべきか無記名にすべきかの議論がありました。客観性を意識し過ぎてしまうつまらない記事になってしまう可能性があります。主観的過ぎる記事では会員からクレームをもらう懸念があります。最終的には、広報委員の記事については、記事の内容に応じて、記名・無記名を判断することで落ち着きました。広報部会一同、色々と試行錯誤しながら、より良い記事を皆さまにお届けすることを志向しています。今年もよろしくお願いいたします。

(広報部会 小宮山 敬仁)

◆ ELV会員の皆様へ ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
長谷川 利彦

新年明けましておめでとうございます。副代表の長谷川です。

昨年は規格策定準備委員会の委員長として諸会議に参加させて頂きました。国の指針上、リユースも重要項目に取り上げられ、今後、よりユーザー様に使いやすい規格が必要になってくるでしょう。

昨年11月に開催された自り法の産業構造審議会におけるヒアリングの席上でも感じましたが、未だに一般消費者の皆様には殆ど中古部品が認識されていない事や、自整業としてもお客様が望まない限りリユース部品は使わないと明言されていました。又、解体車両の扱いに対しても未だ我々の購入価格とは隔たりが大きく、認識的には実態と大きな差があります。是非、議事録をご参照ください。

本年もよろしくお願ひいたします。

◆ 新年おめでとうございます ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
吉川 日男

新年おめでとうございます。昨年より多大なる皆様からのご協力ありがとうございます。

本年は、これまでの自動車リサイクル士制度の更新年度にあたります。各業界団体様から多大なるご支援を頂きながら、産声を上げた制度が本年を境に益々、発展していこうとしております。これは我々の業界に新しい人材が育っていくために、必要不可欠な制度となり、また、業界のリユース認知度向上においかけとなります。業界皆様の方でアピールしましょう。我々の業界も他の業界同様にかつての日本の職人の育成と世界的な自動車リサイクルの模範構築を社会に示す時が来ています。そのための組織構築に、皆様のお力が必要になります。本年も昨年同様以上のご理解とご協力をお願いいたします。また、本年が皆様方の幸運を呼び込めるような活動になることをお祈りいたします。



◆ 新しい年、新たな気持ち ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
酒井 康雄

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。

新年と言っても何かが違う一日ということはないのですが、それでも新しい年に向かって自分自身を考えたりするものです。今年、私は「ギブアンドテイク」という言葉について考えました。

この言葉には2つポイントがあって、1つ目はギブが先にありテイクが後にある、つまりギブしてくれたら自分がギブするのではなく、自分が先にギブすること、2つ目はギブは一つではなく実は「ギブ、ギブ、・・・アンドテイク」であり、テイクは期待しないことでしょう。欲深なので難しいんですね、これが。

兎にも角にも本年も健康で頑張りましょう。



会員の皆様、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

2015年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



2015年の鉄スクラップ業界の見通し

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移

[提供/日刊市況通信社]



2015年の鉄スクラップ市況は、国内の鉄鋼需要は前年並みを維持するものの、韓国電炉が減産体制を維持する見通しとなっていること、さらに鉄鉱石などの原料相場の弱基調が続くことなどから、2014年に比べて低い価格帯での相場推移となりそうだ。

日本鉄鋼連盟は「2015年度の鉄鋼需要の動向について」を発表した。これによると、「2014年度の粗鋼生産は、2年連続で1億1千万トンを上回る見通し。2015年度の国内鉄鋼需要は、公共事業予算の押し上げ効果が剥落するも、消費税増税の影響から落込んでいた住宅投資が底入れに向かい、非住宅建築や機械など設備投資関連も堅調に推移するとみられる。全体では前年度並が想定される」としている。

また海外鉄鋼市場については、「中国・韓国の大幅な鉄鋼生産能力増強の影響が色濃くみられる。このため、2014年度上期は輸出が減少し、輸入は高水準で推移した。2015年度は World Steel(世界鉄鋼協会)によると、世界の鉄鋼需要は小幅ながらプラスの成長が予測されている。但し、アジア市場の需給緩和は続くともみられ、鉄鋼輸出は前年度並、輸入は高水準が継続する見込み」と予測している。

この結果、2015年度の粗鋼生産は、海外市場の動向にもよるが、公共事業予算の反動減に伴う土木の落ち込みを、住宅投資の底入れや、堅調な設備投資関連需要が下支えするかたちとなり、前年度並の1億1千万トンを上回る水準を維持する見通しだ。

こうした状況を考えると、製鋼原料の鉄スクラップの国内需要が2014年に比べて急減する確率は低い。ただ、電炉業界は2015年も「需要見合い生産の徹底」を念頭においている。人材不足による建築工事の遅れが常態化しており、電炉鋼材の需要が急に増加することは考えられない。このため鉄スクラップの需給が急激にタイトになることも想定できないのが実情だ。

むしろ海外マーケットにおいて弱気要因が多く見られる。特に日本の鉄スクラップが多く向かう韓国では、現地電炉の減産が2015年も続く見通しで、日本産の鉄スクラップの購入量は伸びないと考えられる。また2014年に中国からの安価なビレットの輸出が日本の鉄スクラップ相場に与えた影響は大きく、またこれに類似したことが2015年に起こる確率はゼロではない。

以上のことを勘案すると、2014年末にかけて価格水準がジリ安の展開となっている流れはしばらく続き、1~3月は2万5000円(1トン当たりH2価格)を割り込むことが考えられる。また鉄鉱石が現在の水準(1トン当たり70ドル割れ、Fe62%)からさらに安値で推移した場合には、鉄スクラップが2万円を一時的に切る確率はゼロではない。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本ELVリサイクル機構は一切の責任を負いません。)

行事予定

■ 1月の主な予定

1月6日(火)

- ・自動車工業団体新春賀詞交歓会

1月14日(水)

- ・第10回 広報部会
- ・第36回 産構審・中環審合同会議

1月15日(木)

- ・第5回 資源循環委員会
- ・第3回 事業検討委員会(環境省事業)

1月20日(火)～21日(水)

- ・中国地区自動車リサイクル士制度
認定講習会

1月27日(火)

- ・環境省事業報告会

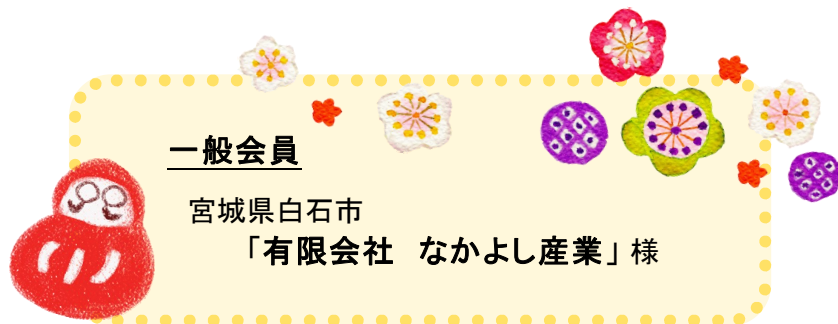


お知らせ

■ 会員数(2014年12月時点)

総数 641社 / 会員 613社、賛助会員 28社

■ 新規ご入会者のご紹介(2014年12月ご入会)



一般会員

宮城県白石市

「有限会社 なかよし産業」様

■ 自動車リサイクル士合格実績(2014年12月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	34名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	50名
自動車リサイクル管理士	626名	175名

編集後記

明けましておめでとうございます。多くの技術革新がなされている昨今、自動車業界もFCV(燃料電池車)といった新しいエネルギーを使用した次世代自動車が発表されました。ご存じとは思いますが、FCVとは水素を酸素と化学反応させ、そこで発生する電気を動力源にした自動車です。今後、水素ステーションといったインフラが整備されることにより普及してくることは必至です。次々と登場してくる新技術は、まさに新しい自動車産業の夜明けを予感させます。▼それに伴い自動車リサイクルも新たな処理技術を要求されることでしょう。まだそれほど昔と言えない昔、自動車解体業と呼ばれ、自動車をバーナーで無造作に切断していたのは、もはや遠い過去の出来事のように思われます。いまや使用済自動車の処理を行う自動車リサイクル業とは、コンプライアンスと安全作業の遵守、付加価値の高い素材分別など技術力の高さと事業を行う職種となってきました。▼そのような時代背景の中で、我ら広報部会もさらにアンテナ精度を増し、有意義な情報を業界の皆様へ速やかに発信することで業界発展の一翼を担えるよう努力していく所存です。本年もELVニュースレターをよろしくお願い致します。

(広報部会 部会長 永田 則男)